

訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭
☎42-2941

故母藤原イト儀 四月四日百一歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町楠川一八七七一
- 喪主 藤原 秀一
 - 長男 藤原 典子
 - 二男 藤原 要
 - 二男 藤原 美由紀
 - 長女 岩坪 玲子
 - 二女 内田 涼子
 - 二女 内田 邦俊
 - 三女 櫻井 百合子
 - 三女 櫻井 泰成
- 外親族一同

故妻山崎タノ儀 四月六日九十五歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は(浦屋)久島葬祭 やすらぎの家
くりおの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生一五二五番地
- 喪主 山崎 貞男
 - 長男 山崎 靖宏
 - 二男 山崎 愛朗
 - 二男 山崎 世津子
 - 三男 山崎 順仁
 - 三男 山崎 美枝子
- 外親族一同

故二女岩川いづみ儀 四月六日六十三歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋)久島葬祭 やすらぎの家
ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町永田二七六番地
- 喪主 岩川 サツ子
 - 弟 岩川 敏
 - 姉 日野 清美
- 外親族一同

故夫佐々木睦雄儀 四月八日八十九歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は(浦屋)久島葬祭斎場ブルマージユ
にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房一七五
- 喪主 佐々木 柳子
 - 長男 佐々木 達郎
 - 長男 佐々木 直子
 - 長女 馬場 ひとみ
 - 長女 馬場 善朗
 - 二女 佐々木 玉恵
- 外親族一同

故夫小倉克弘儀 四月三十日九十六歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は一湊願船寺にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊二三七
- 喪主 小倉 ナツミ
 - 長男 小倉 慶一郎
 - 二男 小倉 慶志
 - 三男 小倉 克志
 - 三男 小倉 典子
 - 長女 宝来 和代
 - 長女 宝来 重治
 - 二女 眞邊 美理
 - 二女 眞邊 万里
- 外親族一同

故夫内田栄志儀 四月二十七日六十九歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋)久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦二四五二一三五
- 喪主 内田 安子
 - 長女 濱崎 小百合
 - 長女 濱崎 慎吾
 - 二女 内田 恵里香
- 外親族一同

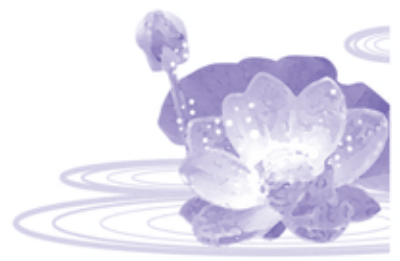
株式会社 アムール屋久島

故夫日高清行儀 四月七日八十七歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は斎場アムール屋久島にて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 鹿児島県熊毛郡屋久島町尾之間八〇二番地一三
- 喪主 日高 エミ子
 - 長男 日高 美智
 - 長男 日高 みゆき
 - 二男 日高 一文
 - 長女 宮之前 文子
 - 長女 宮之前 清
- 外親族一同

四月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。
誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。



ひろひろ

ある呑み会での話で、幼稚園の園長先生の隣に座った。

園長先生は、何に対しても先を読み、自分から率先して動かれる人である。

息子の話から夜の話など、酒を呑みながらいろんな話をした。そんな中でとても心に響いた話があったので、ちよつとまとめて紹介します。

現在、少子高齢化の中、親が子供一人一人に力を入れていく。だから、昔に比べて子供の喧嘩にも親がすぐ出てくる。教室面では、英語など以前は中学生になってから教わる事が、小学生時代、地域によっては幼稚園から教える所もある。確かに、幼児時代は何でもすんなり覚えやすい時期ともいえるだろう。

世の中の移り変わりと同じように、子供を育てる環境も変わってきた。

私自身、幼稚園の頃、思い出すのは藤の花が日陰を作ってくれていた砂場で遊んだ事。山を作った穴を掘って水を溜めたりと、そこには無限の楽しみがあった。

さて、今回言いたかったのが、これからの話。砂場に、割れて水漏れするバケツがある。今ならそんなバケツを親が見たなら「新しい物に替えてください。ケガをしたらどうするんですか」と新しいバケツに取り替えを求めらるだろう。

でも、子供たちは水が漏れるよと言うが、新しいバケツを買ってくれとは言わないだろう。

「水遊びがしたい」さてどうするか。砂場の砂を先に入れた後、水を溜める。そうすることで水を運ぶことができるのだ。

「なるほどね」人間は、生きていく上でいろんな問題があれば考え対応し、問題解決をしてきた。

不便だからといって、すぐに買い与えてしまえば、考える力をはずすことができない。

こんな砂場に、生きていく上での原点を見つけたようで、目からうろこ状態で驚かされた。

そして、時代の流れを理解しながらも、原点にある子供たちの成長を大切にしている教育者の姿に心を打たれた話でもあった。

「老後」より「死後」が心配！！

(納骨壇を購入に来られた方の言葉)

60歳を迎え、自分の人生の断捨離を行う中で、一番最初に思い、一番大切な事。

子供達、孫達に負担をかけたくない!!

大変な事は自分の時代で終わらせようと思う親心。

そんな時、力になります納骨堂!!
納骨堂で永代供養



(よくある一例)

納骨壇を購入し、30年間に維持管理料を前払いする方が多い。

30年経てばお参りに来る方もいなくなるから、その時には納骨堂で合碑して永代供養してくれるので安心である。

ひまわり

桜の花が咲き、新しい年号を迎えようとする4月。Sさんが亡くなった。

最近会う機会がなかったけれど、お元気でいらっしやるものだと思っていた。

1本の電話から、病院に迎え、自宅へと搬送。Sさんは、ほんと眠っているようにお顔。

安置が終わわり、家族に線香をあげてもらい、故人の横でこの数カ月の話を伺った。

私は、会話の中で、生前のことを思い出し、抑えていた感情が溢れ出し、涙してしまい、私自身、遺族の前であんなに泣いてしまったのは初めての事だった。

思えば、いつも出会うのは斎場。自分自身で運転し、ほとんど言っていないほどお参りに来られ、ロビーでいろんな方と話をされ、こんな私にも、いつも笑顔で話しかけてくれた。

また、いろんな団体に所属し、イベント事にも積極的に参加し、この屋久島島民のためにと、頑張ってきた人生でした。

ほんと、人とのつながりを大切にされる人で、私自身もかわいがかつてもらえた。

ある会で一緒に食事する機会があり、食事を終え、Sさんは一服のため外に出られた。

その瞬間、私はいつものいたずら心で扉の鍵を閉めて知らんぶり。その後、当然Sさんが扉が開かず困っていると、周りの人達が気づき、慌てて鍵を開け走った。

みんな、俺に向かい、「こんなことするのは、わーやねー」と、あたふたしていると、Sさんは「おいが怒らないって、わかっちゃうもんやから」と、笑顔で冗談を受け入れてくれた。

振り返れば、歳がいても黒いサングラスをするくらいお洒落で、俺にとってもお父さんというか、おじいちゃんというか、とても親しみの持てる方で、大好きでした。

通夜、葬儀と、島内外から多くの方々が別れに来られた。

また、敬供品も、今までにないくらいあり、これもSさんの人柄だとつくづく思った。

最後に、本格焼酎三岳は、みんなのそばにあり、つらく苦しい時は癒し、嬉しく楽しい時はさらに笑顔にしてくれる。

みんなの心に寄り添ってくれる存在、三岳。Sさん、貴方自身が、三岳そのものだと思う。

長い間、ほんと、お世話になりました。そして、お疲れ様でした。

葬儀のウラ話

訃報の電話を受けた時、(たいへんな事になった)の一言であった。Sさんは島内外お付き合いが広いため、日にちを延ばして頂いた。

そして、段取りに入ったが、今回いろんな問題点があった。

まずは、運送面でフェリーがドック入りでない。そのため、花材や返礼品の入荷が通常より一日遅くなる。急ぐなら飛行機となるのだが、天候は崩れるとの予報。欠航の多い飛行機、それとも時間のかかる船か悩んだが、飛行機で送ってもらった。

私自身、新機種になってからまた乗ったことがないのに、花材が先に乗ることになるとは羨ましい。ちなみに、花の箱は葉の部分が大を占め、大きいし重いってことは運賃も高くなる。

また、新機種は以前に比べて小型化し、日用必需品が優先であり、分散され積まれて、飛行場に何度も取りに行った。

確かに運賃は船の何倍にも高くついたけど、まず品物がなければいけないので、商人としては当然のことである。

次に、人手確保。今の少人数では回しきれないので、急遽、鹿児島の息子二人に連絡。一人の息子の葬儀社長に連絡、事情を説明し、息子と先輩一人の手伝いを依頼、さらに花を分けてもらった。

これで三人確保、とても大きな力を得ることができた。

そして、花材の確保。この日は市場の裏日であり、卸屋さんにも花がない。

ないというわけにはいけないので、卸屋さんも大変。落ち着いてからの話だが、卸屋さん、鹿児島市内の花屋をまわり、花材をわけてもらい集めたそう。

また、生花を挿す容器も足らなくなり、宅急便では間に合わないの、これも急遽飛行機送り。品代よりも運送代の方が高かった。

会社自体も大変な日々だった。

連日、朝から夜遅くまで鳴り止まない電話、送られて来る注文書。

従業員みんな、自分でできることを夜遅くまでやった。

2日間、押し続けた生花200基。

夜、強風の中立てた花環30本。

祭壇設置など、すべてが終わったのは、夜が明け始めた5時半だった。

通夜、葬儀は、無事施行することができた。振り返り思うこと。

無事葬儀施行できたのは、みんなのおかげです。通夜、葬儀と、駐車場整理してくださった〇〇会社の従業員さん、ありがとうございました。

鹿児島の葬儀社の社長さん、従業員さんのバックアップ。鹿児島から急遽帰島し、力となった息子二人。鹿児島の卸屋さん、必死に花屋をまわり花材を揃えてくれたこと。そして、時間問わず、私と一緒に頑張ってくれた両親と従業員。

人のつながりの大切さを感じた出来事でした。皆さん、ほんとありがとうございます。